

## 「氷見1泊2日学びの旅」

概 要	
学び支援者 (敬称略)	和船建造技術を後世に伝える会 (代表 番匠 光昭) 小境 卓治 (氷見市立博物館館長) 後藤 千代子 (氷見市海浜植物園園長) 廣瀬 直樹 (氷見市教育委員会生涯学習課学芸員) 西尾 正輝 (氷見市教育委員会生涯学習課学芸員) 関谷 秀勝 (氷見市海浜植物園)
主 催	富山県、日本海学推進機構
後 援	氷見市
日 時	2008年8月20日(水)～21日(木)
場 所	氷見市一円 (氷見漁港周辺、氷見市立博物館、柳田布尾山古墳、 虻が島、大境洞窟、氷見市海浜植物園)
受講者数	16名

### 8月20日(水)

9:03

JR氷見駅到着。

氷見漁港内和船乗船会場に移動。(当初予定の上庄川は、数日來の雨で増水し、流れが速いため)

9:15

オリエンテーション。



「和船建造技術を後世に伝える会」の皆さんの紹介。

9:30

和船に乗船。



日本海学始まって以来の取材陣  
(?)



「和船建造技術を後世に伝える会」代表 番匠光昭さん制作の  
新造の※「テンマ」。

※小型の和船で、一本釣りやタ  
コツボ漁のほか、サザエやワカ  
メなどを採集する磯見漁に使用  
されていた。小商売の漁師が1  
人乗り、櫓と櫂を練って操船さ  
れた。三枚合わせの底板の両側  
にカイバタ(舷側板)を立てた五  
枚仕立ての構造。

〔「氷見の和船」(和船建造技術  
を後世に伝える会編) 参照〕



現存していた「テンマ」を修復し  
たもの。





「テンマ」2隻のツーショット。

氷見漁港内（海鮮館前）の一角を、15分ほど「和船建造技術を後世に伝える会」の会員の巧みな櫓こぎで、周遊する。



船首を後ろにして、船をバックに漕ぐ、番匠光昭さん。



12:00

氷見漁港内魚市場食堂「海寶」にて昼食。



とれたての魚の刺身と、  
※「かぶす汁」の定食。



※漁師たちが、漁のあとで獲った魚を、船上またはおかにあがってから味噌汁にして食べる。「かぶす」とは、氷見や新湊の漁師の言葉で「分け前」のこと。

番匠さんはじめ、「和船建造技術を後世に伝える会」の皆さんの話を聞きながらの食事。



13:40  
氷見市立博物館に到着。





熱心に、小境館長の話を聞く受講者の皆さん。



氷見の定置網について学ぶ。  
解説：小境氏  
(氷見市立博物館館長)



氷見の和船について学ぶ。  
解説：廣瀬氏  
(氷見市生涯学習課学芸員)



16:15

柳田布尾山古墳に到着。

平成10年に発見された県内最大の古墳。前方後方墳としては全国9番目、日本海側では最大のもの。古墳時代前期（4世紀頃）の富山湾の海上交通を掌握した王者の墓ではないかとされている。



廣瀬学芸員の解説に耳を傾け、古代のロマンに思いを馳せる受講者の皆さん。



17:00

敷地内にある「古墳館」にて、歌を歌う。

スタッフのオカリナ、受講者のハーモニカの伴奏。

「四季の歌」「浜辺の歌」

「小さい秋みつけた」







17:40

民宿「いけなが」到着。

19:00

夕食。

氷見のキトキトの魚をいただく。

1日の疲れをいやしながら、参加者同士の会話もはずむ。

自慢の腕前を披露する受講者の皆さん。

翌日3:30起床で定置網観光船に乗る予定だが、

外は雨が降り出し、風も吹いてきた。

天候を気にしつつ就寝。

8月21日(木)

3:30

観光船運航中止の連絡が入る。残念。





6:00

氷見漁港内魚市場を見学。

夜の雨と風の影響か？

いつもより水揚げが少ない。



氷見の定置網漁で水揚げされたアジ、フクラギ。



7:00

民宿にて朝食。





魚市場の見学途中から雨が止み、青空も出てきた。

定置網観光船に乗れなかった  
ので、「虻が島へはぜひ行きたい。」という受講者の皆さんの  
思いが天に届いたか。



8 : 5 0

虻が島渡船に乗船。

県の名勝・天然記念物に指定を  
受けている虻が島は、全長 180  
m、総面積 4,300 平方メートル  
の富山県最大の島。



約 1 0 分で虻が島に到着。

氷見の海岸から見える姿とは  
反対の方向から眺める虻が島  
の写真。左が、女島(マツノキ  
島)。右が、男島(タブノキ島)。

栈橋は、女島にある。

今年 2 月の高波被害で、栈橋が  
壊れたが、7 月までに修復され  
た。





虻が島の植物について学ぶ。

解説：西尾氏

(氷見市生涯学習課学芸員)

男島は、20 数本のタブノキを中心、トベラ、ヤブランなどの植物が見られる。女島は、20 数本のマツが見られる。島の所々に海浜植物を見ることができ、受講者の中には熱心に植物の名前をたずねる人もいた。



虻が島の歴史について学ぶ。

解説：廣瀬氏

(氷見市生涯学習課学芸員)

高岡城の石垣として、男島の石が使われていた。人工的に分割されたり、符号が刻まれた石が見られる。

縄文土器の破片や奈良、平安時代の遺物も見つかっている。



男島の北岸を散策する受講者。





10:40

大境洞窟住居跡到着。

1917(大正7)年に、洞窟遺跡として日本で初めて発掘調査が行なわれた。

縄文中期～近世の6層にわたる文化層があり、各時代の人々がどのような生活をしてきたのかを廣瀬学芸員の解説と新設されたパネルで知ることが出来た。



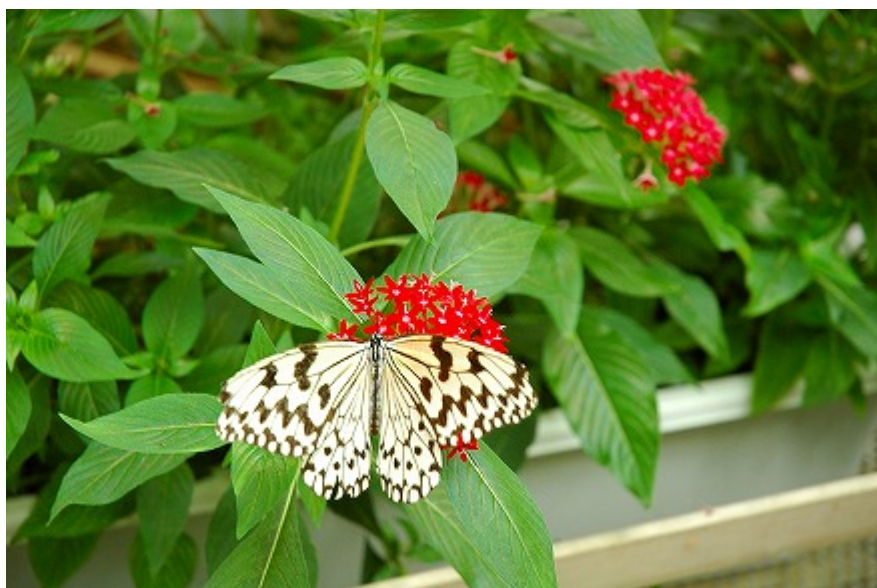
11:30

海鮮館付近で、各自昼食。

12:45

氷見市海浜植物園到着。

植物園の関谷氏に園内を案内してもらおう。





国指定天然記念物「イタセンパラ」について学ぶ。

解説：西尾学芸員

コイ科タナゴ亜科タナゴ属で、日本固有種の淡水魚。体長約8cmで、平べったく体高が高いのが特徴。



生息地は、全国で淀川水系、濃尾平野、氷見市万尾川・仏性寺川の3ヶ所だが、氷見市以外は絶滅に近い状態である。

氷見市では平成15年度から「イタセンパラ再生事業」を行っており、毎年2000個体の稚魚を確認できるようになっている。市内施設での展示や小学校の授業で活用されている。(パンフレットより)



14:00

クラフト「貝の絵付け」に挑戦。





講師は、氷見市海浜植物園園長の後藤千代子さん。



ホタテ貝に、思い思いの絵や文字を描いた。



園長とのジャンケンに勝った受講者に、クラフトの記念品をいただいた。

14:45

氷見市海浜植物園にて振り返り。

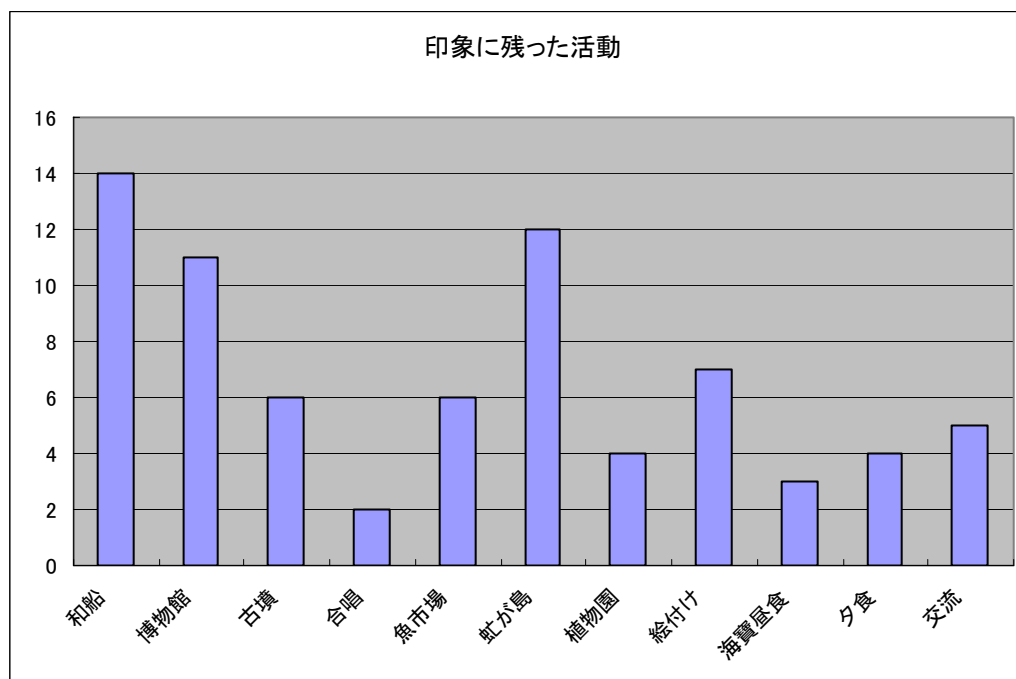
15:10

JR島尾駅到着。解散。



## 受講者の声（アンケートより）

## 1. 印象に残った活動は？(回答 16人、複数回答可)



## 2. その理由は？

- ア、和船** ・貴重な和船を知りたかった。 ・体験できなかったことを体験出来た。  
 ・人生初めて櫓漕ぎ体験ができた。
- イ、博物館** ・小境館長の説明がよかった。 ・講義が理解しやすく、うまかった。  
 ・非常に上手な語り口。 ・先達者の智慧に感心させられた。
- ウ、虹が島** ・虹が島の石が高岡城に石垣とはびっくり。  
 ・なかなか行けない所まで船でいけたこと。  
 ・虹が島に行ってみたいという永年の思いが実現。  
 ・前から虹が島へ行きたかった。
- エ、貝の絵付け** ・手作りの自分のみやげを得た ・〇十年ぶりの体験で難しかったが、楽しかった。  
 ・初めてなのでよい記念になりました。
- オ、交流、夕食** ・夕食は楽しかった。（1日の疲れが取れた）
- カ、全体を通じて** ・定置網観光ができず残念。 ・今の自然と現代の生活のギャップを感じました。  
 ・地元の歴史や自然を再認識することができた。  
 ・初めての貴重な体験であり、思い出に残したい。

## 3. 全体を通しての感想

- ・熱心に対応されたスタッフに感謝します。
- ・スタッフの方が非常に優秀だと思いました。
- ・座学の中に組み込まれた現地研修というのも有意義である。少しテーマが多い様に思いました。
- ・今後も機会があれば是非参加したい。
- ・大変良い体験、見学をさせていただきました。
- ・立派な企画であり感謝。定置網だけは天候悪く残念。